

Title	黒岩恒の著作物および新聞掲載記事について
Author(s)	嘉数, 修
Citation	史料編集室紀要(34): 11-32
Issue Date	2011-02-25
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12001/8362
Rights	沖縄県教育委員会

黒岩恒の著作物および新聞掲載記事について

嘉数 修

1. はじめに

黒岩恒 (1858-1930) は高知県の出身で、1876年 (明治9) に佐川小学校で教鞭を執ったのを皮切りとして高知県尋常中学校や高知県農学校で勤務し、1892年 (明治25) 7月、34歳の時に沖縄県尋常師範学校 (後の沖縄県師範学校) 兼沖縄県尋常中学校に助教諭心得として赴任、1920年 (大正9) に和歌山県へ転居するまで、沖縄県師範学校教諭、国頭郡各間切組合立農学校長 (1902 (明治35) ~1911 (明治44))、沖縄県立農学校長 (1911 (明治44) ~1914 (大正3))、沖台拓殖製糖株式会社農事部主任 (1915 (大正4) ~1920 (大正9)) などを歴任した人物である (島袋, 1964; 大城 (編), 1969; 天野, 1969, 1977a)。沖縄県の理科教育および農業教育や産業の育成に携わる傍ら、生物学、地質学および民俗学など多岐にわたる分野で数多くの研究を行い、その成果を国内の学術雑誌に発表して本土の学界でも名声を博した著名な博物学者であった (天野, 1977a)。また、沖縄の植物標本を同郷高知県の出身である牧野富太郎に送ったのをはじめ、海草、昆虫類、棘皮動物、軟体動物、淡水産魚類、ヤモリの仲間などの生物標本をそれぞれ専門の研究者へ送付し、これらの研究が学術雑誌に掲載されることによって、琉球列島の自然が広く国内外へ紹介された。明治後期において黒岩は、沖縄と日本本土の研究者との橋渡し役として非常に重要な役割を果たした人物であった (天野, 1977b, 1989)。当時、県内に「黒岩農学校校長」の名は広く知れわたり、その動向は当時の新聞紙面にたびたび取り上げられている。執筆記事も多く、その活動の一端は『名護市史 資料編 新聞集成・1, 2』(名護市史編さん委員会 (編), 1984, 1985) や『石垣市史 資料編 近代4 新聞集成 I』(石垣市役所 (編), 1983)、『仲里村史 第5巻 資料編4 新聞集成』(仲里村史編集委員会 (編), 2004) などで読むことができる。

黒岩の著作物等の業績や経歴等については、『黒岩恒先生顕彰記念誌』(大城 (編), 1969) や『琉球列島有用樹木誌』(天野, 1989)、『名護市史通信』(名護市史編さん室 (編), 1984) などに詳しい。本稿では可能な限り原典にあたり、その業績の調査と全体の整理を行った。史料が現存しないため未確認の期間があり完全な調査とは言えないが、今後の黒岩恒研究の参考になることを願い、以下に報告する。

KAKAZU Osamu: Note on Kuroiwa Hisashi, Principal of Kunigami (Kunchan) Agricultural School, with Lists of his Publications in Academic Journals and Okinawan Newspapers

2. 方法

1) 著作物について

黒岩恒が沖縄へ来る以前に高知で行った研究成果である5編の論文も併せて黒岩のすべての研究論文を目録化することを目指した。まず、学会誌に発表された論文を発表年代順に並べた。論文および記事の目録は整理番号、発表年、論文のタイトル、署名、掲載雑誌名、巻(号)、頁の順で記した(表1)。雑誌編集部による記事には**印をつけた。表2には表1に載せなかったその他の著作物を載せた。表3には『琉球教育』『沖縄教育』を主な県内刊行物として、黒岩による著作物と黒岩関係の記事を収録した。記事については、*印をつけて黒岩の著作と区別した。新聞紙上に寄稿された黒岩の署名記事については表4に示した。

なお、著作物のタイトル及び新聞見出しについては原典のまま表記し、掲載雑誌名は新漢字で統一した。新聞見出しが同一タイトルで連続するものは、見出しの後に記事の項目の一部を付し内容が分かるようにした。基本的には天野(1977a, 1977b, 1989)による黒岩の著作目録を補って、より正確な目録の作成を目指した。

2) 関係新聞記事について

『名護市史通信』(名護市史編さん室〈編〉, 1984)に報告されている黒岩恒関連の新聞記事を補完するために、再度、『琉球新報』および『沖縄毎日新聞』の新聞紙面を調査した。なお、今回は国頭農学校関連の記事のうち、黒岩と直接関連がないと思われるものは省いた。黒岩関係記事として1898年(明治31)以降に発行された『琉球新報』『沖縄毎日新聞』を中心に、“黒岩”“農学校”“校長”などの単語を見出しや本文に含む記事を紙面から抜き出した(表5)。また、黒岩が出した広告や黒岩の講演内容についての解説記事についても収録した。広告は最初の部分を一部、原典のまま抜き出した。

目録の並びは整理番号、新聞名、発行年月日、掲載面、見出しの順とした。新聞名は『琉球新報』は『琉新』、『沖縄毎日新聞』は『沖毎』とした。見出しは原典のままである。

3. 結果

1) 著作物について

(1) 国内刊行学術雑誌

国内で刊行されている『地学雑誌』『地質学雑誌』『動物学雑誌』等に掲載された論文を表1に示した。論文と雑誌編集部による記事を合わせて、掲載数の多い順に、『動物学雑誌』に31編、『東京人類学会雑誌』に9編、『地質学雑誌』に8編、『地学雑誌』に6編、

以下『博物学雑誌』5編、『植物学雑誌』4編、『台湾博物学会会報』1編と続く。『動物学雑誌』に掲載された論文数が最も多く続いて地学地質関係、民俗学関係の論文が多い。『植物学雑誌』への投稿は少なくなっている。1897年(明治30)の『東京人類学会雑誌』(第12巻第132号)の「雑報」に「沖縄人類學會の設立」と題した記事があり、そこに8条からなる規約と八名の発起人のうちの一人として黒岩恒の名前が見える。また、1901年(明治34)に発刊された『東京人類学会雑誌』(第16巻第183号)の「雑報」に「沖縄に於ける人類學的調査」と題して、沖縄県立中学校の博物学教師であった加藤三吾⁽¹⁾と黒岩恒両氏により「沖縄學術研究会」が組織され、その仮規約によると、宗教、風俗、言語、文字、人類、人種、古跡等の各分野において沖縄研究が行われるという記事が収録されている。その続報として『東京人類学会雑誌』(第16巻第184号)に趣意書と6条からなる仮規約が掲載されている。このように生物学以外にも、地質学、博物学、民俗学など幅広い分野にわたって研究を行い、多くの業績を残していることが分かる。

(2) 県内刊行物に掲載された論文

県内刊行物に掲載された論文および記事を表3に示した。師範学校教諭であり博物学者であった黒岩による県内刊行物への最初の著作物が『征清録』に収められている。『沖縄大百科事典』(沖縄大百科事典刊行委員会〈編〉, 1983)によると、『征清録』は1894年(明治27)に沖縄県私立教育会が発行した『沖縄県私立教育会雑誌』25号の付録として、日清戦争中における国威昂揚の目的で刊行されたものである。黒岩はその中の「第1章 日清開戦の発端」を沖縄県立師範学校での同僚である新田義尊との連名で書いている。その後『沖縄県私立教育会雑誌』は1895年(明治28)に『琉球教育』へ、そして日露戦争後の1905年(明治38)に『沖縄教育』と名称を変更した。『征清録』以降、『琉球教育』『沖縄教育』への黒岩の寄稿は専ら博物学に関するものとなる。1900年(明治33)の「新田立石記」は“黒岩榕陰”の署名で発表されており、黒岩が“尖閣列島”を命名したことや師範学校での同僚であった新田義尊の名を取って尖閣諸島の南小島の岩に“新田立石”と命名したことなどが漢文で記されている。

(3) 新聞紙上への寄稿文(新聞掲載記事)

黒岩が執筆し、地元紙『琉球新報』『沖縄毎日新聞』に1898年(明治31)から1914年(大正3)までに掲載された著作の見出しを表4に示す。明治33年『琉球新報』に掲載された

(1) 津軽藩弘前生。1899年(明治32)沖縄県中学校の博物学教師となり、沖縄の歴史・民俗などの調査結果を『東京人類学会雑誌』に発表。明治34年に「沖縄學術研究会」を発足させるが、翌35年に長崎県の中学に転勤となった。著書に『琉球の研究』(1906)がある。

「尖閣列島談」は、記者による書き起こし記事となっている。

最初の掲載は、『琉球新報』（1898年〈明治31〉5月1日付）への「久米島紀行」であった。新聞紙上へ掲載された著作物は、1898年（明治31）から1903年（明治36）頃にかけては主に研究論文の内容を紹介したものが多く、1904年（明治37）以降、次第に農業関係の内容に推移していく。代表的なものは、次の3つである。1911年（明治44）に連載された「本縣の農業経済を動かすべき副産的作物の一二」は生薑しょうがと落花生についてその栽培法や収穫、乾燥法及び輸出額にいたるまで詳細に解説したものである。1912年（明治45）に掲載された「農業本位の小学校」は静岡県静の芳川高等小学校の細則が比較的広い紙面を割いて連載されており、農村における理想の農業教育を実現したいという黒岩の強い思いが表れている。特筆されるのは1913年（大正2）9月3日から翌年3月16日まで続く「台湾に於ける農林業上の瞥見」で、全76回に及ぶ長期連載となった。

2) 新聞紙上に見られる黒岩恒の動向

当時の新聞紙上には、「国頭農学校校長」としての黒岩の動向がたびたび取り上げられている。表5には、新聞紙面から拾い出した1899年（明治32）から1915年（大正4）までの黒岩に関する記事の見出しを時系列に沿って並べた。なお、本稿では国頭農学校関係の記事のうち、黒岩の名前が出ていない記事については割愛した。

明治20年代や大正から昭和初期の新聞については、現存する紙面が極めて少なく、黒岩が沖縄県に在住した1892年（明治25）から1920年（大正9）までの28年間のうち、尋常師範学校赴任後の数年間（明治25～30年）と沖台拓殖製糖株式会社勤務から沖縄を去る期間を含む大正7年以降の黒岩関係記事については、その掲載の有無を確認できなかった。

確認できた紙面の中で、最初に黒岩の名前が登場するのは沖縄県私立教育会の常集会の案内広告であり、謝花昇らとともに5名の演説者の中の一人として紹介されている（1898年〈明治31〉4月21日付『琉球新報』4面）。記事の中の“黒岩垣”は“恒”の誤植である。同年4月25日付の『琉球新報』2面には「本縣私立教育會の常集會」の見出しでその様子が伝えられているが、記事の中では特に黒岩の講演内容には触れられていない。記事には「各辯士の演説ありたるに於て實檢したる談とて地理人情風俗等より教育の景況に至るまで～」とあるので、おそらく黒岩も地理についてであろうか、何かしらの講演を行ったことは確かであろうが、もはや定かではない。通常の記事に黒岩の名が登場するのは1899年（明治32）3月4日付『琉球新報』2面に県師範学校教諭新田義尊と黒岩恒の「教員の昇級」が最初である。次いで同年5月27日付『琉球新報』2面には地質調査のため吉原学士と東京帝国大学理科大学教授の横山又次郎博士が夏に来県する予定を報じた「博士學士の来縣」がある。

また、1899年（明治32）10月22日に行われた沖縄県私立教育会常集会の内容について、同年10月27日付『琉球新報』が「私立教育會常集會」の見出しで伝えている。その席上、

黒岩はアルコール発酵についての講演を行い、沖縄の酒醸造に用いられる麹菌の種類は、上方酒に用いられる麹菌とは異なることを図版や実物を用いて説明したと報じている。

翌1900年(明治33)6月17日に開催された講演会の内容は、同年6月19日付『琉球新報』の「私立教育會の常集會」で報じられており、その中での黒岩の講演内容が尖閣列島に関するものであったことと、その講演内容を後日掲載することが告知されている。これは、「尖閣列島談」として明治33年6月21日より六回にわたって連載された。

4. 考察

1) 新たに追加した著作物

高知県尋常中学校教諭心得であった黒岩が、高知県幡多郡南方の離島の地質に関して執筆した「土佐南部諸島漫遊の所見」2編を『地学雑誌』から追加した。また、『名護市史通信』(名護市史編さん室(編), 1984)の「黒岩恒資料1」から漏れている「琉球に眞正なる珊瑚島なし」および『動物学雑誌』に掲載された「名瀬近傍の蝶類」を新たに黒岩の著作物として追加した。

『東京人類学会雑誌』には「琉球俚諺」など6編の論文が収録されている。『黒岩恒先生顕彰記念誌』の著作論文目録中では「沖縄俚諺」となっているが、これは原典を確認して「琉球俚諺」が正しいことがわかった。また、『地学雑誌』には黒岩による雑報として「Raleigh Rock」と題する短い報告があり、久米赤島(赤尾嶼)の様子が述べられている。島が火成岩からなることや「クロアヂサシ」「オサドリ」が観察されたことが記されている。今回新たに、『博物学会誌』の雑録に掲載されていた「琉博瑣談」(全5回)を加えることができた。これまでに確認した黒岩恒著作目録には記録されていなかったものである。1898年(明治31)に発刊された『地質学雑誌』第5巻第60号の表紙見返し部分に『博物学雑誌』第3号(1898年(明治31))の広告が掲載されており、その目次に「琉博瑣談 第一」と記されていたのが発見のきっかけとなった。

表2の県内で発刊された著作物のうち、1901年(明治34)に発表された『琉球産蝶類目録』については現物が確認できなかったが、同年12月3日付『琉球新報』2面に「蝶類目録と黒岩氏」という見出しの記事が掲載されており、この目録が実在したことが間接的に確かめられた。新聞記事の内容は次の通りである。

「●蝶類目録と黒岩氏 本縣師範學校教諭黒岩恒氏にハ兩三日「琉球産蝶類目録」と称する自著の一小冊子を縣下知名の人々へ配はりたる由なるか毎度ながら氏の本邦學術界に貢獻する所感謝するの外なし」

『台湾博物学会会報』の1篇と『琉球産膜翅類目録』については、天野鉄夫の資料『琉球学集説』(No. 197)によってその写しが確認できた。また、『八重山関係文献目録自然

編』(石垣市史編集委員会(編), 2003)には、『地質学雑誌』(第6巻第71号)に「尖閣列島の地質構造」という著作が収録されていることが記されている。しかし、このタイトルで国立国会図書館に照会したが該当する論文は確認できなかった。尖閣列島の地質に関する内容は『地学雑誌』(第12巻第9号)に「尖閣列島探検記事(承前)」(黒岩, 1900)として掲載されており、それと取り違えた可能性がある。そのため整理番号はつけていない。

黒岩は著作物のいくつかでペンネームを用いており、例えば『琉球教育』第54号に掲載された「新田立石記」の署名は“黒岩榕陰”となっている。他に『動物学雑誌』では“琉黒”や単に“黒”でも通じたようだ。なお、「新田立石記」が掲載された『琉球教育』第54号の発行年については明治33年が正しい。

黒岩の生涯については、天野(1989)が詳細に調べており、その貴重な史料は『琉球学集説』(No. 197)に収められている。本稿では見出しのみの紹介にとどまったが、新聞紙面では黒岩の周辺で起こった不慮の事故(『琉新』M34. 1. 3.)や事件(『琉新』M42. 1. 15., M42. 2. 7.)、身内の不幸(『琉新』T3. 9. 14, 9. 19., 『沖毎』T3. 9. 13)についても掲載されている。1906年(明治39)の体調が優れず断酒を告知する広告(『琉新』M39. 9. 2~9. 6)やその年の夏に『琉球新報』に連載された「國頭旅行」、事件被害者の家族への義捐金募集の発起人に名を連ねる(『琉新』M42. 2. 7.)広告など、その内容から農学校長“黒岩”の人柄が察せられる新聞記事も少なくない。また、昭和期では唯一『喜久里教達氏新聞切抜集』に、黒岩が5月25日に逝去したことを伝える短い記事が残されている(当山, 1997)。切抜かれた紙面には喜久里氏によると思われる手書きの文字で、「五・七・四」と記されていることから、おそらく「昭和五年七月四日」付の新聞であろう。黒岩が亡くなってから1ヶ月余りが過ぎた後の掲載である。享年73歳であった。

2) 論文と新聞記事数の推移

黒岩の論文発表数と新聞掲載記事数の推移について、年ごとに比較した(図1)。グラフ全体を概観すると大きく3つの時期に分けられる。前期は明治22年から明治34年頃までの学術雑誌への論文発表が盛んな時期、中期は明治32年以降からの新聞へ寄稿を行っている時期、そして明治32年以降の黒岩関係もしくは黒岩の動向に関する新聞記事が多く掲載され、再び新聞への寄稿が増えた後期である。

研究論文の掲載数は明治22年頃から明治34年までに集中している。黒岩が沖縄県尋常師範学校博物学教諭として勤務したのは1892年(明治25)で、国頭郡各間切組合立国頭農学

(2)記事では、大阪で亡くなったことになっているが、黒岩は沖縄を離れた後、京都大学瀬戸臨海実験所のある和歌山県西牟婁郡瀬戸鉛山村(せとかなやまむら)に居住し、その後一時期、大阪に転居しておりその場所が箕面村平尾であったと推測される。実際に亡くなった場所は、和歌山県伊都郡高野口町名倉737番地である(島袋, 1964; 天野, 1989)。

校の開校とともに農学校教諭兼校長に就任したのは1902年（明治35）5月のことである。中期にあたる1899年（明治32）には、「八重山地方漫遊日禱」と「石垣島」が、翌年には「尖閣列島談」が連載された。前述のように沖縄県私立教育会常集会での活動も報じられていたことから、天野（1989）が述べているように「その頃から博物学者黒岩恒の名前は、広く県の内外に知られるようになった」のであろう。先にも述べたように県内新聞が黒岩の動向について取り扱った記事は、1898年（明治31）4月の『琉球新報』の紙面ではじめて確認することができる。農学校長になってからはさすがに多忙を極めたであろうことが図1より推測されるが、国頭各村立農学校が県立農学校へ移管する前年の1910年（明治43）には、農学校長“黒岩”の記事数はピークに達し、執筆活動も再び顕著になった。黒岩の執筆記事と記事は大正4年まで途切れることがなかった。

また、黒岩は県民を啓蒙するために多くの記事を新聞に寄せている。これは、師範学校教諭時代のもとの農学校長時代のものに区別される。前者は主に学術論文の調査に伴う紀行文であったり、その調査論文の内容を平易に紹介した記事であるのに対して、明治44年以降は「本縣の農業経済を動かすべき副産的作物の一二」や「臺灣に於ける農林業上の瞥見」など農林業関係の寄稿が主となる。1914年（大正3）3月に「博物学上より見たる琉球」と題した記事を寄せたのを最後に、それ以降、黒岩自身による新聞への投稿は見当たらない。黒岩は諸般の事情により、大正3年9月21日をもって辞職願を提出し、同年12月2日をもって正式に沖縄県立農学校長を退任した（大城〈編〉，1969）。

5. おわりに

今回の調査で新たに見つかった黒岩恒著作の『博物学雑誌』に掲載された5編の短報や黒岩関連の新聞記事を追加し、出典等の不明確だった研究論文についても再確認した。

黒岩恒は、沖縄在住の前後に60編を超える学術論文を執筆した（天野，1977a, 1977b）。そのほとんどは沖縄に関する研究である。また、黒岩を取り扱った地元紙の記事や広告は約150本に上る。黒岩は、沖縄の自然誌に多大なる関心を寄せ、本土の学者にも常に扉を開き、多くの研究者との間に親交があったことが知られている（天野，1977a）。また、沖縄の高等教育および農業教育へ注いだ情熱は、その教え子たちに多大な影響を与えたといわれる（島袋，1964；大城，1969；天野，1977a）。天野（1977）は黒岩を評して「沖縄自然界の学問的開拓者」と呼んだが、まさにその通りであろう。

動物ではクロイワトカゲモドキ (*Goniurosaurus kuroiwae kuroiwae*) やクロイワニイニ (*Platypleura kuroiwae*) など、植物ではハイシダ (*Nephrolepis kuroiwae*) などの学名には、“*kuroiwae*”の文字が刻まれている。「本部半島」、「勝連半島」、「久米島のオガミ崎」、「尖閣列島」という地名なども黒岩による命名である（天野，1989）。黒岩が提供した生

物標本をもとに研究が行われた論文等を含めるとさらに相当数に上るため、本稿の目録では黒岩自身が発表した論文に絞ったが、まだ未発見の論文や記事等があるかもしれない。

しかしながら現在、県内でも沖縄の自然史研究の開拓者である黒岩恒の名を知るものは、おそらく自然科学や歴史の研究者の一部に限られているのが実情ではないだろうか。本稿で紹介したような黒岩の多くの業績が、黒岩の名とともに県内の高等学校、大学を含めた教育機関において紹介されることが少ないことも理由の一つだろう。

黒岩恒やそのあとに続いた沖縄の自然史研究者の足跡を多くの人々が共有することは、沖縄の島々と現在もそこに息づく動植物が、どれほど魅力的な存在であるかを再確認するきっかけの一つとなるかもしれない。今回、本稿で紹介した新聞記事もまた、多くの著作物とともに彼のとなりや当時の沖縄において黒岩恒がどのような存在であったかを知る助けになるであろう。

2010年(平成22)は黒岩の没後80年に当たる。今後、黒岩の業績とその生涯を学校教育の中で伝えることができなかと考えている。

参考文献

- 天野鉄夫(1969) 沖縄自然界の学問的開拓者“黒岩恒”. 黒岩恒先生顕彰記念誌, 黒岩恒先生功績顕彰会, pp. 1-8.
- 天野鉄夫(1977a) 黒岩恒—沖縄自然界の学問的開拓者—. 新沖縄文学(37), 沖縄タイムス社編, pp. 87-95
- 天野鉄夫(1977b) 沖縄植物研究史. 沖縄動植物研究史, 「沖縄動植物研究史」刊行会(編), 130p.
- 天野鉄夫(1989) 琉球列島有用樹木誌. 沖縄出版, pp. 403-428.
- 天野鉄夫 琉球学集説—天野鉄夫新聞切抜帳—197. 沖縄県立図書館蔵
- 石垣市史編集委員会(編)(2003) 八重山関係文献目録—自然編. 石垣市, p. 18.
- 石垣市役所(編)(1983) 石垣市史 資料編 近代4. 新聞集成 I. 石垣市役所, 926p.
- 大城昌隆(編)(1969) 黒岩恒先生顕彰記念誌. 黒岩恒先生功績顕彰会, 395p.
- 沖縄大百科事典刊行事務局(1983) 沖縄大百科事典(下巻). 沖縄タイムス社, p. 123.
- 島袋俊一(1964) 黒岩恒先生. 郷土の友(創刊号), pp. 31-33.
- 新里金福(編)(1969) 沖縄の百年 第1巻人物編 近代沖縄の人々. 太平出版社, pp. 127-130.
- 当山昌直(1997) 新聞見出し紹介—喜久里教達氏の切り抜き集より—. 沖縄県史研究紀要, 第3号. 沖縄県教育委員会, pp. 89-126.
- 仲里村史編集委員会(編)(2004) 仲里村史 第五巻 資料編4 新聞集成. 久米島町役場, 859p.
- 名護市史編さん室(編)(1984) 黒岩恒資料1. 黒岩恒と国頭農学校関係新聞記事目録(1). 名護市史通信(第2冊), 名護市史編さん室, pp. 27-43.
- 名護市史編さん委員会(編)(1984) 名護市史・資料編2 戦前新聞集成・1. 名護市役所, 440p.
- 名護市史編さん委員会(編)(1985) 名護市史・資料編3 戦前新聞集成・2. 名護市役所, 491p.

表1. 国内学術雑誌に掲載された論文および記事(1/3)

整理番号	発表年	タイトル	署名	掲載雑誌名, 巻(号): 頁
1	1889 (M22)	土佐ニ於ケル蝶類ノ報知	黒岩恒	動物学雑誌, 1(9): 297-299.
2	1891 (M24)	土佐に於て新に発見せし蝶類	高知尋中	動物学雑誌, 3(36): 426-427.
3	1891 (M24)	土佐南部諸島漫遊の所見	黒岩恒	地学雑誌, 3(7): 376-380.
4	1891 (M24)	土佐南部諸島漫遊の所見	黒岩恒	地学雑誌, 3(10): 537-539.
5	1892 (M25)	土佐ニ於ル非海産軟體類ノ一斑	黒岩恒	動物学雑誌, 4(49): 433-437.
6	1892 (M25)	球陽雜譚	黒岩恒誌	動物学雑誌, 4(50): 486-490.
7	1893 (M26)	球陽雜譚 (第二稿)	黒岩恒	動物学雑誌, 5(52): 42-45.
8	1893 (M26)	球陽雜譚 (第三稿)	黒岩恒	動物学雑誌, 5(54): 123-126.
9	1893 (M26)	球陽雜譚 (第四稿)	黒岩恒	動物学雑誌, 5(57): 279-281.
10	1893 (M26)	琉球やまたにし	*	動物学雑誌, 5(53): 110.
11	1893 (M26)	琉球産ノ蝶類ニ就テ	*	動物学雑誌, 5(53): 110-112.
12	1893 (M26)	沖縄やもり	*	動物学雑誌, 5(53): 112.
13	1893 (M26)	一色まみまみ	*	動物学雑誌, 5(55): 200.
14	1893 (M26)	琉球人ノ薬用動物	*	動物学雑誌, 5(55): 200-201.
15	1893 (M26)	三木原廣介氏(消息)	琉黒	動物学雑誌, 5(55): 201.
16	1893 (M26)	琉球に眞正なる珊瑚島なし	黒岩恒	地学雑誌, 5(1): 47-49.
17	1894 (M27)	八重山龜採獲紀事	黒岩恒	動物学雑誌, 6(70): 296-298.
18	1894 (M27)	琉球ノ家猫	琉黒	動物学雑誌, 6(70): 308.
19	1894 (M27)	琉球諸島ノ野獸	琉黒	動物学雑誌, 6(70): 308.
20	1894 (M27)	Polydonta sp.	黒岩	動物学雑誌, 6(73): 403.
21	1894 (M27)	琉球このは蝶	黒岩	動物学雑誌, 6(73): 403-404.
22	1894 (M27)	沖縄島に就て	黒岩恒	地質学雑誌, 1(4): 172-176.
23	1894 (M27)	沖縄島に就て(續稿)	黒岩恒	地質学雑誌, 1(6): 265-271.
24	1894 (M27)	沖縄島に就て	黒岩恒	地質学雑誌, 1(7): 332-339.
25	1895 (M28)	蜥蜴類について	黒岩	動物学雑誌, 7(75): 39-41.
26	1895 (M28)	八重山列島ノ蝶類	三木原廣介・黒岩恒	動物学雑誌, 7(85): 380-391.
27	1895 (M28)	名瀬近傍の蝶類	黒	動物学雑誌, 7(85): 394.
28	1895 (M28)	サソリモドキの産地	*	動物学雑誌, 7(85): 394-395.
29	1895 (M28)	八重山列島の魚類毒殺法	黒	動物学雑誌, 7(85): 395.
30	1895 (M28)	儒艮の漁場	黒	動物学雑誌, 7(85): 395.

* 署名がないもの

表1. 国内学術雑誌に掲載された論文および記事(2/3)

整理番号	発表年	タイトル	署名	掲載雑誌名, 巻(号): 頁
31	1895 (M28)	マツカンの捕り方	黒	動物学雑誌, 7(85): 395-396.
32	1897 (M30)	東京動物學會記事 (M30年3月13日午後2時理科大学動物學 教室に於いて行われた月並例会での黒 岩恒の講演の概要) 演題: 「琉球の動 物とその採集法について」	編集部 **	動物学雑誌, 9(102): 166-168.
33	1897 (M30)	球陽雜俎	琉黒	動物学雑誌, 9(110): 479-482.
34	1897 (M30)	琉球俚諺 第一篇 (沖繩島)	黒岩恒	東京人類学会雑誌, 12(132): 240-242.
35	1897 (M30)	雑報 沖繩人類學會の設立	編集部 **	東京人類学会雑誌, 12(132): 253.
36	1897 (M30)	琉球俚諺 第三篇 (八重山)	黒岩恒	東京人類学会雑誌, 13(140): 53-56.
37	1898 (M31)	球陽雜俎: 第九卷第四八二頁の續き	流黒	動物学雑誌, 10(111): 28-30.
38	1898 (M31)	琉球俚諺 第一篇 (沖繩島のつゝき)	黒岩恒	東京人類学会雑誌, 13(143): 189-192.
39	1898 (M31)	久米島	黒岩恒	地質学雑誌, 5(59): 409-419.
40	1898 (M31)	尖閣群島	琉黒	地質学雑誌, 5(60): 498.
41	1898 (M31)	琉球に於ける珊瑚石灰岩中の鹹化石	琉黒	地質学雑誌, 5(60): 499-500.
42	1898 (M31)	琉博瑣談 (第一)	黒岩恒	博物学雑誌, 3: 25-27.
43	1898 (M31)	琉博瑣談 (第二)	黒岩恒	博物学雑誌, 4: 31-33.
44	1898 (M31)	琉博瑣談 (第三)	黒岩恒	博物学雑誌, 7: 28-29.
45	1899 (M32)	琉博瑣談 (第四)	黒岩恒	博物学雑誌, 8: 28-32.
46	1899 (M32)	琉博瑣談 (第五)	黒岩恒	博物学雑誌, 12: 25-27.
47	1899 (M32)	石垣島	黒岩恒誌	地質学雑誌, 6(71): 283-289.
48	1899 (M32)	石垣島 (承前)	黒岩恒	地質学雑誌, 6(72): 307-311.
49	1899 (M32)	琉球土俗調査存稿	黒岩恒	東京人類学会雑誌, 14(154): 149-151.
50	1899 (M32)	琉球土俗調査存稿(二)	黒岩恒	東京人類学会雑誌, 14(156): 227-231.
51	1899 (M32)	Provisional List of Marine Algæ collected in Loochoo Islands determined by Dr. K. Okamura.	Hisashi Kuroiwa.	植物学雑誌, 13(150): 93-97.
***	1899 (M32)	(尖閣列島の地質構造)	***	地質学雑誌, 6(71): 頁不明
52	1900 (M33)	A List of Phanerogams collected in the Southern Part of Isl. Okinawa one of the Loochoo Chain.	H. Kuroiwa	植物学雑誌, 14(162): 109-112.
53	1900 (M33)	A List of Phanerogams collected in the Southern Part of Isl. Okinawa one of the Loochoo Chain. (Continued from p.112.)	H. Kuroiwa	植物学雑誌, 14(163): 122-126.
54	1900 (M33)	A List of Phanerogams collected in the Southern Part of Isl. Okinawa one of the Loochoo Chain. (Concluded from p.126.)	H. Kuroiwa	植物学雑誌, 14(164): 139-143.

** 編集部による記事 *** 該当なし

表1. 国内学術雑誌に掲載された論文および記事(3/3)

整理番号	発表年	タイトル	署名	掲載雑誌名, 巻(号): 頁
55	1900 (M33)	琉球俚諺 第二篇(宮古)(前回は百四十三號に在り)	黒岩恒	東京人類学会雑誌, 15(168): 252-255.
56	1900 (M33)	尖閣列島探検記事	黒岩恒	地学雑誌, 12(8): 476-483.
57	1900 (M33)	尖閣列島探検記事 (承前)	黒岩恒	地学雑誌, 12(9): 528-543.
58	1900 (M33)	雑報 Raleigh Rock.	黒岩恒	地学雑誌, 12(9): 560-561.
59	1901 (M34)	雑報 沖縄に於ける人類學的調査	編集部 **	東京人類学会雑誌, 16(183): 391-392.
60	1901 (M34)	雑報 沖縄學術研究會	編集部 **	東京人類学会雑誌, 16(183): 429, 432.
61	1909 (M42)	琉球列島の陸蛇類 (動物地理學)	黒岩恒	動物学雑誌, 21(244): 84-88.
62	1909 (M42)	新式簡易蠅取法	黒岩恒	動物学雑誌, 21(244): 91-92.
63	1926 (T15)	Provisional List of The Hymenoptera Collected in Loochoo Islands during the years 1905-1907.	H. Kuroiwa	台湾博物学会会報 16(85): 138-141.
64	1927 (S2)	琉球島弧に於ける淡水魚累採集概報	黒岩恒	動物学雑誌, 39 (467): 355-368.

** 編集部による記事

表2. 県内で発刊された著作物

整理番号	発表年	タイトル	署名	掲載雑誌名, 巻(号): 頁
1	1901 (M34)	琉球産蝶類目録	****	(小冊子): 1-4.
2	1908 (M41)	Provisional List of The Hymenoptera Collected in Loochoo Determined By Dr.M.Matsumura.	H. KUROIWA	沖縄県国頭郡各村組合立農学校. 1-7.

**** 実物は未確認, 『琉球新報』(M34. 12. 3)に関連記事有り。

表3. 県内刊行物に掲載された寄稿および記事

整理番号	発表年	タイトル	書名	(号): 頁
1	1894 (M27)	『征清録』(セイシンロク) (一編戦端朝鮮談交戦及び外評 (一章日清開 戦の發端 新田義尊・黒岩恒編輯	沖縄県私立教育会 雑誌附録	(附録): 1-38.
2	1896 (M29)	沖縄の博物界 (一)	琉球教育	(3): 6-8.
3	1896 (M29)	沖縄の博物界 (二)	琉球教育	(4): 8-10.
4	1896 (M29)	沖縄の博物界 (三)	琉球教育	(5): 5-7.
5	1896 (M29)	沖縄の博物界 (四)	琉球教育	(6): 2-3.
6	1896 (M29)	沖縄の博物界 (五)	琉球教育	(7): 7-8.
7	1896 (M29)	沖縄の博物界 (承前) (六)	琉球教育	(11): 5-6.
8	1896 (M29)	沖縄の博物界 (其七)	琉球教育	(12): 2-3.
9	1897 (M30)	沖縄の博物界 (八)	琉球教育	(18): 7-8.
10	1897 (M30)	任免 沖縄縣尋常師範學校教諭兼任沖縄縣 尋常中學校教諭 黒岩恒 *	琉球教育	(21): 20.
11	1897 (M30)	沖縄の博物界 (九)	琉球教育	(23): 1-3.
12	1898 (M31)	沖縄の博物界 (十)	琉球教育	(26): 3-4.
13	1898 (M31)	松村大學教授の美德	*	琉球教育 (26): 21-22.
14	1898 (M31)	沖縄の新火山島	琉球教育	(31): 27-30.
15	1898 (M31)	鳥類標本調整法	琉球教育	(32): 8-12.
16	1898 (M31)	沖縄の博物界 (十一)	琉球教育	(34): 6-7.
17	1899 (M32)	沖縄の博物界 (十二)	琉球教育	(37): 13-14.
18	1899 (M32)	沖縄の博物界 (十三)	琉球教育	(45): 7-9.
19	1900 (M33)	新田立石記	**	琉球教育 (54): 15.
20	1902 (M35)	黒岩師範學校教諭の轉任	*	琉球教育 (75): 15.
21	1906 (M39)	甘藷の大害虫に就きて	琉球教育	(115): 33-35.
22	1908 (M41)	沖縄の自然界	***	沖縄教育 (31): 89-97.
23	1912 (M45)	黒岩縣立農學校長の選奨	*	沖縄教育 (70): 54.
24	1912 (M45)	人物月旦 縣立農學校長黒岩恒君 沖の鳥人 *	沖縄教育	(71): 27-30.
25	1912 (T2)	博物學上よりみたる琉球-台灣博物學會會報 別刷	沖縄教育	(92): 1-7.

* 編集部による記事 ** 黒岩榕陰の署名となっている *** 署名なし

表4. 黒岩恒著作新聞掲載記事(1/5)

整理番号	新聞	西暦	元号	月日	面	タイトル
1	琉新	1898	(M31)	5/1	1	久米島紀行 黒岩恒
2	琉新	1898	(M31)	5/3	1	久米島紀行(つつき) 黒岩恒
3	琉新	1898	(M31)	5/5	1	久米島紀行(つつき) 黒岩恒
4	琉新	1898	(M31)	5/13	2	久米島紀行(前承) 黒岩恒 (未完)
5	琉新	1899	(M32)	4/17	2	八重山地方漫遊日禱/緒言
6	琉新	1899	(M32)	4/21	2	八重山地方漫遊日禱(二)
7	琉新	1899	(M32)	4/25	2	八重山地方漫遊日禱(三)
8	琉新	1899	(M32)	6/15	3	八重山地方漫遊日禱(四)
9	琉新	1899	(M32)	6/17	3	八重山地方漫遊日禱(五)
10	琉新	1899	(M32)	6/23	3	八重山地方漫遊日禱(六)
11	琉新	1899	(M32)	6/29	3	八重山地方漫遊日禱(七)
12	琉新	1899	(M32)	7/13	3	八重山地方漫遊日禱(八)
13	琉新	1899	(M32)	9/27	2	石垣島
14	琉新	1899	(M32)	9/29	1	石垣島(前承)/黒岩恒誌
15	琉新	1899	(M32)	10/3	1	石垣島(前承)/黒岩恒誌
16	琉新	1899	(M32)	10/5	1	石垣島(前承)/黒岩恒誌
17	琉新	1899	(M32)	10/25	1	石垣島(承前)/黒岩恒/地質
18	琉新	1899	(M32)	10/27	1	石垣島(承前)/黒岩恒
19	琉新	1899	(M32)	10/29	1	石垣島(前承)
20	琉新	1900	(M33)	6/21	2	尖閣列島談(十七日私立教育會席上に於ける黒岩恒氏の談話筆記)
21	琉新	1900	(M33)	6/23	3	尖閣列島談(私立教育會席上に於ての黒岩恒氏の演説筆記)
22	琉新	1900	(M33)	6/29	2	尖閣列島談〔私立教育會席上に於ての黒岩恒氏の談話筆記〕
23	琉新	1900	(M33)	7/1	3	尖閣列島談〔私立教育會席上に於ての黒岩恒氏の演説筆記〕
24	琉新	1900	(M33)	7/7	1	尖閣列島談(私立教育會席上に於ての黒岩恒氏の演説筆記)
25	琉新	1900	(M33)	7/13	2	尖閣列島談(承前)
26	琉新	1903	(M36)	6/7	2	鳥島につきて(一) 発端, 島の位置
27	琉新	1903	(M36)	6/9	2	鳥島につきて(二) 島の地理地質
28	琉新	1903	(M36)	6/11	2	鳥島につきて(三)
29	琉新	1903	(M36)	6/13	2	鳥島につきて(四)
30	琉新	1903	(M36)	6/15	2	鳥島につきて(五)

*『琉球新報』は「琉新」、『沖縄毎日新聞』は「沖毎」として表示した。

表4. 黒岩恒著作新聞掲載記事(2/5)

整理番号	新聞	西暦	元号	月日	面	タイトル
31	琉新	1903	(M36)	6/21	2	鳥島につきて (六)
32	琉新	1904	(M37)	2/17	3	製糖者諸君に告ぐ (砂糖製造の火度に就きて) / 仲吉朝助・黒岩 恒
33	琉新	1905	(M38)	12/27	1	甘藷の大害虫に就きて
34	琉新	1907	(M40)	8/30	2	八重山に發生せる甘蔗の一大病害について
35	琉新	1908	(M41)	9/15	25	琉球産の蛇類に就きて
36	沖毎	1909	(M42)	9/27	2	スルル虫に就きて
37	琉新	1911	(M44)	2/22	1	喜屋武村に發生せし夜盗虫 (黒岩校長談話)
38	琉新	1911	(M44)	10/6	2	本縣の農業經濟を動かすべき副産的作物の一 第二稿 生薑
39	琉新	1911	(M44)	10/7	2	本縣の農業經濟を動かすべき副産的作物の一 第二稿
40	琉新	1911	(M44)	10/8	4	本縣の農業經濟を動かすべき副産的作物の一 第二稿
41	琉新	1911	(M44)	10/9	2	本縣の農業經濟を動かすべき副産的作物の一 第四稿
42	琉新	1911	(M44)	10/13	2	本縣の農業經濟を動かすべき副産的作物の一 第五稿
43	沖毎	1911	(M44)	10/13	9	琉球の森林害虫キオビエダシヤクに就きて / 黒岩恒 / 喜屋武重康
44	琉新	1911	(M44)	10/22	4	本縣の農業經濟を動かすべき副産的作物の一 第六稿
45	琉新	1911	(M44)	10/28	2	本縣の農業經濟を動かすべき副産的作物の一 第七稿
46	琉新	1911	(M44)	10/29	4	本縣の農業經濟を動かすべき副産的作物の一 第八稿
47	琉新	1912	(M45)	1/1	第四-1	地文上より觀たる沖繩島 (上)
48	琉新	1912	(M45)	1/6	2	本縣の農業經濟を動かすべき副産的作物の一 第一稿 落花生
49	琉新	1912	(M45)	1/7	2	地文上より觀たる沖繩島 (中)
50	琉新	1912	(M45)	7/7	4	農業本位の一小學校 (上)
51	琉新	1912	(M45)	7/14	4	農業本位の小學校 (二)
52	琉新	1912	(M45)	7/21	4	農業本位の小學校 (三)
53	琉新	1912	(M45)	7/28	3	農業本位の小學校 (四)
54	琉新	1912	(T1)	8/4	3	農業本位の小學校 (五)
55	琉新	1912	(T1)	8/11	4	農業本位の小學校 (五)
56	琉新	1912	(T1)	8/18	4	農業本位の小學校 (六)
57	琉新	1912	(T1)	8/25	4	農業本位の小學校 (七)
58	琉新	1912	(T1)	9/8	4	農業本位の小學校 (八)
59	沖毎	1913	(T2)	8/8	2	マラリヤ予防用魚類タプミノにつきて (上)
60	沖毎	1913	(T2)	8/9	2	マラリヤ予防用魚類タプミノにつきて (下)

* 『琉球新報』は「琉新」、『沖繩毎日新聞』は「沖毎」として表示した。

表4. 黒岩恒著作新聞掲載記事(3/5)

整理番号	新聞	西暦	元号	月日	面	タイトル
61	琉新	1913	(T2)	9/3	2	臺灣に於ける農林業上の瞥見 (1) 甲 纖維植物 (一) サイザルヘンプ
62	琉新	1913	(T2)	9/5	2	臺灣に於ける農林業上の瞥見 (2) サイザルヘンプの續き
63	琉新	1913	(T2)	9/7	2	臺灣に於ける農林業上の瞥見 (3) サイザルヘンプの續き
64	琉新	1913	(T2)	9/10	2	臺灣に於ける農林業上の瞥見 (4) サイザルヘンプの續き
65	琉新	1913	(T2)	9/11	2	臺灣に於ける農林業上の瞥見 (5) サイザルヘンプの續き
66	琉新	1913	(T2)	9/13	2	臺灣に於ける農林業上の瞥見 (6) サイザルヘンプの續き
67	琉新	1913	(T2)	9/14	2	臺灣に於ける農林業上の瞥見 (7) サイザルヘンプの續き
68	琉新	1913	(T2)	9/15	2	臺灣に於ける農林業上の瞥見 (8) サイザルヘンプの續き
69	琉新	1913	(T2)	9/16	2	臺灣に於ける農林業上の瞥見 (9) サイザルヘンプの續き
70	琉新	1913	(T2)	9/18	2	臺灣に於ける農林業上の瞥見 (10) (二) 阿旦 播種, 造林
71	琉新	1913	(T2)	9/19	2	臺灣に於ける農林業上の瞥見 (11) (二) 阿旦葉の漂白 第壹章 粗製原料葉, 第貳章 現今本嶋に於いて施行さるる漂白法
72	琉新	1913	(T2)	9/20	2	臺灣に於ける農林業上の瞥見 (12) 阿旦の續き 第三章 試験
73	琉新	1913	(T2)	9/21	2	臺灣に於ける農林業上の瞥見 (13) 漂白試験 第一試験
74	琉新	1913	(T2)	9/22	2	臺灣に於ける農林業上の瞥見 (14) 阿旦の續き 第二～四試験
75	琉新	1913	(T2)	9/23	2	臺灣に於ける農林業上の瞥見 (15) 阿旦の續き 第五～第九試験
76	琉新	1913	(T2)	9/24	2	臺灣に於ける農林業上の瞥見 (16) 阿旦の續き 第四章 結論
77	琉新	1913	(T2)	9/27	2	臺灣に於ける農林業上の瞥見 (17) (三) マニラヘンプ
78	琉新	1913	(T2)	9/28	2	臺灣に於ける農林業上の瞥見 (18) マニラヘンプの續き
79	琉新	1913	(T2)	10/4	2	臺灣に於ける農林業上の瞥見 (19) (四) 沖繩糸芭蕉 (五) パナマ帽子草
80	琉新	1913	(T2)	10/7	2	臺灣に於ける農林業上の瞥見 (20) (六) 纖維雜俎
81	琉新	1913	(T2)	10/11	2	臺灣に於ける農林業上の瞥見 (21) 乙 澱粉植物 (一) クズウコン
82	琉新	1913	(T2)	10/13	2	臺灣に於ける農林業上の瞥見 (22) クズウコンの續き
83	琉新	1913	(T2)	10/14	2	臺灣に於ける農林業上の瞥見 (23) クズウコンの續き
84	琉新	1913	(T2)	10/20	2	臺灣に於ける農林業上の瞥見 (24) クズウコンの續き
85	琉新	1913	(T2)	10/21	2	臺灣に於ける農林業上の瞥見 (25) (二) 田代薯
86	琉新	1913	(T2)	10/22	2	臺灣に於ける農林業上の瞥見 (26) 田代薯の續き 土質, 風害
87	琉新	1913	(T2)	10/23	2	臺灣に於ける農林業上の瞥見 (27) 田代薯の續き 土質, 収穫期
88	琉新	1913	(T2)	10/24	2	臺灣に於ける農林業上の瞥見 (28) 田代薯の續き 製粉方法
89	琉新	1913	(T2)	10/25	2	臺灣に於ける農林業上の瞥見 (29) (三) 蕃薯樹 (タビオカ)
90	琉新	1913	(T2)	10/26	2	臺灣に於ける農林業上の瞥見 (30) 蕃薯樹の續き 地勢土質

* 『琉球新報』は「琉新」、『沖繩毎日新聞』は「沖毎」として表示した。

表4. 黒岩恒著作新聞掲載記事(4/5)

整理番号	新聞	西暦	元号	月日	面	タイトル
91	琉新	1913	(T2)	10/27	2	臺灣に於ける農林業上の瞥見 (31) 蕃薯樹の續き 距離及株数～
92	琉新	1913	(T2)	10/29	2	臺灣に於ける農林業上の瞥見 (32) 蕃薯樹の續き 家畜野獸の害
93	琉新	1913	(T2)	11/29	2	臺灣に於ける農林業上の瞥見 (33) (丙) 果類
94	琉新	1913	(T2)	11/30	2	臺灣に於ける農林業上の瞥見 (34) 果類の續き 龍眼栽培法
95	琉新	1913	(T2)	12/1	2	臺灣に於ける農林業上の瞥見 (35) 果類の續き 龍眼の續き
96	琉新	1913	(T2)	12/6	2	臺灣に於ける農林業上の瞥見 (36) 果類 龍眼の續き 産地産類
97	琉新	1913	(T2)	12/7	2	臺灣に於ける農林業上の瞥見 (37) 果類 龍眼の續き 品種
98	琉新	1913	(T2)	12/8	2	臺灣に於ける農林業上の瞥見 (38) 果類 龍眼の續き 栽培法
99	琉新	1913	(T2)	12/9	2	臺灣に於ける農林業上の瞥見 (39) 果類 龍眼の續き 収穫
100	琉新	1913	(T2)	12/10	2	臺灣に於ける農林業上の瞥見 (40) 果類 龍眼の續き 乾果法
101	琉新	1913	(T2)	12/12	2	臺灣に於ける農林業上の瞥見 (41) 果類 龍眼の續き 乾果法
102	琉新	1913	(T2)	12/13	2	臺灣に於ける農林業上の瞥見 (42) 果類 龍眼の用途
103	琉新	1913	(T2)	12/14	2	臺灣に於ける農林業上の瞥見 (43) 果類 荔枝 荔枝樹の性状
104	琉新	1913	(T2)	12/18	2	臺灣に於ける農林業上の瞥見 (44) 果類 荔枝樹の性状の續き
105	琉新	1913	(T2)	12/19	2	臺灣に於ける農林業上の瞥見 (45) 果類 荔枝の續き
106	琉新	1913	(T2)	12/20	2	臺灣に於ける農林業上の瞥見 (46) 果類 荔枝の續き
107	琉新	1913	(T2)	12/21	2	臺灣に於ける農林業上の瞥見 (47) 果類 荔枝雑俎の續き
108	琉新	1913	(T2)	12/22	2	臺灣に於ける農林業上の瞥見 (48) 果類 荔枝雑俎の續き
109	琉新	1913	(T2)	12/23	2	臺灣に於ける農林業上の瞥見 (49) 果類 果類雑俎の續き
110	琉新	1913	(T2)	12/24	2	臺灣に於ける農林業上の瞥見 (50) 果類 果類雑俎の續き
111	琉新	1913	(T2)	12/25	2	臺灣に於ける農林業上の瞥見 (51) 果類 果類雑俎の續き
112	琉新	1913	(T2)	12/27	2	臺灣に於ける農林業上の瞥見 (52) 果類 果類雑俎の續き
113	琉新	1913	(T2)	12/28	2	臺灣に於ける農林業上の瞥見 (53) 果類 果類雑俎の續き
114	琉新	1913	(T2)	12/30	2	臺灣に於ける農林業上の瞥見 (54) 果類 果類雑俎の續き
115	琉新	1914	(T3)	1/7	2	臺灣に於ける農林業上の瞥見 (55) 果類 果類雑俎の續き
116	琉新	1914	(T3)	1/8	2	臺灣に於ける農林業上の瞥見 (56) 果類 果類雑俎の續き
117	琉新	1914	(T3)	1/10	2	臺灣に於ける農林業上の瞥見 (57) 果類 果類雑俎の續き
118	琉新	1914	(T3)	1/16	2	臺灣に於ける農林業上の瞥見 (58) 油料類 蓖麻
119	琉新	1914	(T3)	1/22	2	臺灣に於ける農林業上の瞥見 (59) 油料類 蓖麻の續き 土質
120	琉新	1914	(T3)	2/4	2	臺灣に於ける農林業上の瞥見 (60) 油料類 油料類除草手入及剪枝法

* 『琉球新報』は「琉新」、『沖縄毎日新聞』は「沖毎」として表示した。

表4. 黒岩恒著作新聞掲載記事 (5/5)

整理番号	新聞	西暦	元号	月日	面	タイトル		
121	琉新	1914	(T3)	2/5	2	臺灣に於ける農林業上の瞥見 (61)	油料類	苧麻収穫法の續き
122	琉新	1914	(T3)	2/6	2	臺灣に於ける農林業上の瞥見 (62)	油料類	苧麻の用途
123	琉新	1914	(T3)	2/23	2	臺灣に於ける農林業上の瞥見 (63)	油料類	烏臼木(ナギキハチ)
124	琉新	1914	(T3)	3/2	1	臺灣に於ける農林業上の瞥見 (64)	油料類	烏臼の續き
125	琉新	1914	(T3)	3/3	1	臺灣に於ける農林業上の瞥見 (65)	油料類	烏臼の續き
126	琉新	1914	(T3)	3/4	1	臺灣に於ける農林業上の瞥見 (66)	油料類	烏臼の續き
127	琉新	1914	(T3)	3/5	1	臺灣に於ける農林業上の瞥見 (67)	染料植物	薯榔
128	琉新	1914	(T3)	3/6	1	臺灣に於ける農林業上の瞥見 (68)	染料植物	薯榔の續き
129	琉新	1914	(T3)	3/8	1	臺灣に於ける農林業上の瞥見 (69)	染料植物	薯榔の續き
130	琉新	1914	(T3)	3/9	1	臺灣に於ける農林業上の瞥見 (70)	染料植物	薯榔の續き
131	琉新	1914	(T3)	3/10	1	臺灣に於ける農林業上の瞥見 (71)	染料植物	薯榔の續き
132	琉新	1914	(T3)	3/11	1	臺灣に於ける農林業上の瞥見 (72)	染料植物	薯榔の續き
133	琉新	1914	(T3)	3/12	1	臺灣に於ける農林業上の瞥見 (73)	染料植物	薯榔の續き
134	琉新	1914	(T3)	3/14	1	臺灣に於ける農林業上の瞥見 (74)	染料植物	薯榔の續き
135	琉新	1914	(T3)	3/15	1	臺灣に於ける農林業上の瞥見 (75)	染料植物	薯榔の續き
136	琉新	1914	(T3)	3/16	1	臺灣に於ける農林業上の瞥見 (76)	染料植物	薯榔の續き
137	琉新	1914	(T3)	3/17	1	博物學上より見たる琉球 (一) (台湾博物學會例會席上に於ける講演内容, 台湾博物学会会報 第三年第十二号別刷)		
138	琉新	1914	(T3)	3/18	1	博物學上より見たる琉球 (二)		
139	琉新	1914	(T3)	3/19	1	博物學上より見たる琉球 (三)		
140	琉新	1914	(T3)	3/20	1	博物學上より見たる琉球 (四)		

* 『琉球新報』は「琉新」、『沖繩毎日新聞』は「沖毎」として表示した。

表5. 黒岩関係新聞記事(1/4)

整理番号	新聞	西暦	元号	月日	面	見出し
1	琉新	1898	(M31)	4/21	4	廣告 來ル二十四日午前九時より那覇小学校に於いて本會常集會～
2	琉新	1898	(M31)	4/23	4	廣告 來ル二十四日午前九時より那覇小学校に於いて本會常集會～
3	琉新	1899	(M32)	3/4	2	教員の昇級
4	琉新	1899	(M32)	5/27	2	博士學士の來縣
5	琉新	1899	(M32)	6/3	2	黒岩教諭の博物調査
6	琉新	1899	(M32)	7/19	2	黒岩山岸両氏の上京
7	琉新	1899	(M32)	10/17	4	廣告 來ル二十二日(日曜)午前九時ヨリ本會常集會ヲ師範學校内ニ～
8	琉新	1899	(M32)	10/19	4	廣告 來ル二十二日(日曜)午前九時ヨリ本會常集會ヲ師範學校内ニ～
9	琉新	1899	(M32)	10/27	2	私立教育會常集會
10	琉新	1899	(M32)	12/19	4	忌中 黒岩 恒 (本文なし)
11	琉新	1899	(M32)	12/21	4	忌中 黒岩 恒
12	琉新	1899	(M32)	12/23	4	忌中 黒岩 恒
13	琉新	1899	(M32)	12/25	4	忌中 黒岩 恒
14	琉新	1899	(M32)	12/27	4	忌中 黒岩 恒
15	琉新	1899	(M32)	12/29	4	忌中ニ付年末年始シトモ缺禮 黒岩 恒
16	琉新	1900	(M33)	6/13	4	廣告 來ル十七日(日曜)午前九時ヨリ師範學校講堂ニ於テ本會常集～
17	琉新	1900	(M33)	6/15	2	教育會の常集會
18	琉新	1900	(M33)	6/15	3	廣告 來ル十七日(日曜)午前九時ヨリ師範學校講堂ニ於テ本會常集～
19	琉新	1900	(M33)	6/19	2	私立教育會の常集會
20	琉新	1900	(M33)	9/9	3	黒岩教諭の帰校
21	琉新	1900	(M33)	9/21	2	黒岩教諭の昇級
22	琉新	1900	(M33)	12/29	3	尖閣列島探検記事(太田生稿)
23	琉新	1901	(M34)	1/3	2	師範學校生徒の溺死
24	琉新	1901	(M34)	1/5	2	前川守範溺死の詳報
25	琉新	1901	(M34)	4/27	2	萬國動物学会と黒岩教諭
26	琉新	1901	(M34)	12/3	2	蝶類目録と黒岩氏
27	琉新	1902	(M35)	5/5	2	黒岩教諭の轉任
28	琉新	1902	(M35)	5/7	2	新田、黒岩両氏の賞金給與
29	琉新	1902	(M35)	5/7	2	黒岩恒氏の出張
30	琉新	1902	(M35)	6/19	2	黒岩國頭農學校長の歸縣
31	琉新	1902	(M35)	9/19	2	農學校長の出覇
32	琉新	1902	(M35)	9/23	2	郡長農學校長の歸任
33	琉新	1903	(M36)	1/23	2	黒岩氏の昇級
34	琉新	1903	(M36)	4/29	2	西村黒岩両氏の叙位
35	琉新	1903	(M36)	5/17	2	運輸丸の鳥島行
36	琉新	1903	(M36)	5/23	2	鳥島噴火状況視察
37	琉新	1903	(M36)	5/23	2	鳥島へ出張員の歸覇
38	琉新	1903	(M36)	5/25	2	鳥島噴火状況視察
39	琉新	1903	(M36)	5/27	2	黒岩農學校長の歸任
40	琉新	1903	(M36)	6/7	2	農林學校の實況視察

*『琉球新報』は「琉新」、『沖縄毎日新聞』は「沖毎」として表示した。

表5. 黒岩恒関係新聞記事(2/4)

整理番号	新聞	西暦	元号	月日	面	見出し
41	琉新	1903	(M36)	6/11	2	黒岩横内両氏の出発
42	琉新	1903	(M36)	10/1	2	実業科設置に就きて(國頭學校教諭平良保一の談)
43	琉新	1903	(M36)	10/29	2	黒岩農學校長の出願
44	琉新	1904	(M37)	5/3	2	黒岩農學校長の出願
45	琉新	1904	(M37)	5/7	2	黒岩農學校長の歸任
46	琉新	1905	(M38)	4/17	3	往來 黒岩校長
47	琉新	1905	(M38)	4/29	3	往來 黒岩農學校長の歸校
48	琉新	1905	(M38)	8/23	2	黒岩校長の出願
49	琉新	1905	(M38)	11/17	2	黒岩平良氏の合著
50	琉新	1906	(M39)	2/15	2	縣外名士の沖繩觀 琉球に學ぶべきもの(二)帝國唯一の農學校
51	琉新	1906	(M39)	5/29	2	名護便り 五月廿六日發(名護公園に熱帯植物の移植)
52	琉新	1906	(M39)	9/2	3	(広告) 在名護黒岩恒(小生義病氣再發の氣味有之自今麥酒~)
53	琉新	1906	(M39)	9/4	4	(広告) 在名護黒岩恒(小生義病氣再發の氣味有之自今麥酒~)
54	琉新	1906	(M39)	9/5	4	(広告) 在名護黒岩恒(小生義病氣再發の氣味有之自今麥酒~)
55	琉新	1906	(M39)	9/6	4	(広告) 在名護黒岩恒(小生義病氣再發の氣味有之自今麥酒~)
56	琉新	1906	(M39)	9/20	2	黒岩恒氏の新研究
57	琉新	1906	(M39)	9/27	2	國頭旅行 飄々生 第十一信 源河の鮎漁
58	琉新	1906	(M39)	9/28	2	國頭旅行 飄々生 第十二信 源河の森林
59	琉新	1906	(M39)	9/29	2	國頭旅行 飄々生 第十三信 羽地の一夜
60	琉新	1906	(M39)	9/30	2	國頭旅行 飄々生 第十四信 「おひるぎ」の純林
61	琉新	1906	(M39)	10/4	2	國頭旅行 飄々生 第十六信 恩納の鑛泉退化せる昆虫
62	琉新	1906	(M39)	10/5	2	國頭旅行 飄々生 第十七信 恩納間切の金柑 黒岩氏の參考室
63	琉新	1906	(M39)	10/6	2	國頭旅行 飄々生 第十八信 黒岩校長と介殼虫
64	琉新	1906	(M39)	12/12	2	黒岩氏の歸校
65	琉新	1907	(M40)	1/19	2	黒岩校長の出願
66	琉新	1907	(M40)	2/21	3	読者俱樂部 (國頭農學校の生徒に白粉を塗って歩く者が見...)
67	琉新	1907	(M40)	5/16	2	屋我地通信(一) 四月三十日 塩たく人
68	琉新	1907	(M40)	8/13	3	國頭農學校同窓會景況
69	琉新	1907	(M40)	9/10	2	名護通信 (鳳梨[パインアプル]の罐詰製造試験)
70	琉新	1907	(M40)	12/8	2	名護通信 (幻灯機械購入趣意書 名護教育會長 黒岩恒)
71	琉新	1908	(M41)	3/7	2	黒岩農學校長の昇給
72	琉新	1908	(M41)	3/19	2	國頭農學校の卒業生
73	琉新	1908	(M41)	3/29	2	國頭農學校 卒業式の景況
74	琉新	1908	(M41)	7/16	2	黒岩校長の歸任
75	琉新	1908	(M41)	7/28	2	黒岩・大塚両氏へ叙勲
76	琉新	1908	(M41)	8/10	2	國頭郡青年會 五日の演説會
77	琉新	1908	(M41)	12/7	2	黒岩校長出願
78	琉新	1909	(M42)	2/7	1	故平良氏遺族救助義捐金
79	琉新	1909	(M42)	2/7	4	廣告 故平良孝吉君義捐金 發起人 加藤達雄 黒岩恒 大塚市五郎
80	琉新	1909	(M42)	2/8	4	廣告 故平良孝吉君義捐金 發起人 加藤達雄 黒岩恒 大塚市五郎

* 『琉球新報』は「琉新」、『沖繩毎日新聞』は「沖毎」として表示した。

表5. 黒岩恒関係新聞記事(3/4)

整理番号	新聞	西暦	元号	月日	面	見出し
81	琉新	1909	(M42)	2/9	3	廣告 故平良孝吉君義捐金 発起人 加藤達雄 黒岩恒 大塚市五郎
82	琉新	1909	(M42)	2/10	3	廣告 故平良孝吉君義捐金 発起人 加藤達雄 黒岩恒 大塚市五郎
83	琉新	1909	(M42)	2/11	3	廣告 故平良孝吉君義捐金 発起人 加藤達雄 黒岩恒 大塚市五郎
84	琉新	1909	(M42)	2/13	3	廣告 故平良孝吉君義捐金 発起人 加藤達雄 黒岩恒 大塚市五郎
85	琉新	1909	(M42)	2/18	2	名護通信 二月十三日 加藤黒岩大塚の三氏発起人
86	琉新	1909	(M42)	4/7	1	黒岩校長の出覇
87	沖毎	1909	(M42)	4/7	2	黒岩國頭農學校長の出覇
88	琉新	1909	(M42)	4/10	1	渡瀬博士尚家訪問
89	琉新	1909	(M42)	4/15	1	名護通信 四月十一日 屋我地島
90	琉新	1909	(M42)	7/17	1	黒岩農學校長歸校
91	沖毎	1909	(M42)	8/3	2	國頭農校講習會
92	琉新	1909	(M42)	12/3	1	黒岩氏出覇
93	沖毎	1910	(M43)	1/17	2	國頭農校出身者懇親會
94	沖毎	1910	(M43)	2/24	2	黒岩農學校長來覇
95	琉新	1910	(M43)	2/25	1	黒岩校長出覇
96	沖毎	1910	(M43)	2/28	2	黒岩校長歸校
97	琉新	1910	(M43)	3/1	1	黒岩校長歸校
98	沖毎	1910	(M43)	4/15	2	黒岩農學校長出張
99	琉新	1910	(M43)	4/16	1	黒岩校長の出覇
100	琉新	1910	(M43)	4/18	1	渡瀬博士の首里行
101	沖毎	1910	(M43)	4/18	2	マンガース試験地
102	沖毎	1910	(M43)	4/18	2	黒岩校長
103	琉新	1910	(M43)	4/19	1	マンガースの配置
104	琉新	1910	(M43)	4/19	1	黒岩校長歸名す
105	沖毎	1910	(M43)	4/19	2	黒岩校長歸校
106	琉新	1910	(M43)	4/22	1	マンガースの配置
107	沖毎	1910	(M43)	5/27	2	國頭農學校のサイザル試作
108	沖毎	1910	(M43)	6/12	2	黒岩校長の上京
109	琉新	1910	(M43)	6/14	1	黒岩校長昨日出發す
110	沖毎	1910	(M43)	6/14	2	黒岩校長出發
111	琉新	1910	(M43)	7/15	1	黒岩校長歸縣
112	沖毎	1910	(M43)	7/15	2	黒岩校長歸校
113	琉新	1910	(M43)	9/24	1	黒岩校長出覇
114	琉新	1910	(M43)	10/6	1	黒岩農學校長歸校
115	琉新	1910	(M43)	10/19	1	黒岩校長の書翰
116	琉新	1911	(M44)	1/10	1	黒岩農學校長出覇
117	琉新	1911	(M44)	5/8	1	黒岩恒氏來覇
118	琉新	1911	(M44)	7/4	2	縣農學校生の旅行と熱帯植物種苗
119	琉新	1911	(M44)	8/12	2	名護の苗圃害虫
120	琉新	1911	(M44)	10/4	2	黒岩農學校長出覇

* 『琉球新報』は「琉新」、『沖繩毎日新聞』は「沖毎」として表示した。

表5. 黒岩恒関係新聞記事(4/4)

整理番号	新聞	西暦	元号	月日	面	見出し
121	沖毎	1911	(M44)	10/4	2	黒岩校長の出覇
122	琉新	1911	(M44)	11/18	2	黒岩校長出覇
123	沖毎	1911	(M44)	11/19	2	黒岩氏出覇
124	琉新	1912	(M45)	1/9	2	黒岩校長表彰
125	沖毎	1912	(M45)	1/9	2	黒岩農學校長選奨さる
126	琉新	1912	(M45)	1/13	2	黒岩校長出覇
127	琉新	1912	(M45)	1/16	2	黒岩農學校長表彰
128	沖毎	1912	(M45)	1/17	2	黒岩氏表彰祝賀会
129	琉新	1912	(M45)	1/19	2	黒岩校長の略歴
130	琉新	1912	(M45)	1/20	2	黒岩氏選奨祝賀会
131	沖毎	1912	(M45)	1/20	3	(広告) 拝啓昨日ハ小生ノ為盛大ナル祝賀会御開キ被成下誠ニ難有奉存候
132	沖毎	1912	(M45)	2/8	2	賀黒岩農學校長選奨ノ祭明庵 川端花山
133	琉新	1912	(M45)	2/11	2	(名護電報) 十日發 農校の薦奨祝賀会
134	沖毎	1912	(M45)	2/11	2	黒岩校長選奨祝賀会
135	琉新	1912	(M45)	3/9	2	黒岩校長出覇
136	沖毎	1912	(M45)	3/10	2	黒岩恒氏来覇
137	琉新	1912	(M45)	3/16	2	黒岩校長歸名
138	琉新	1912	(M45)	4/14	2	黒岩校長出覇
139	琉新	1912	(T1)	9/29	2	黒岩校長来覇
140	琉新	1912	(T1)	10/3	2	黒岩校長歸護
141	琉新	1912	(T1)	10/4	2	黒岩氏の蠅虫研究
142	琉新	1912	(T1)	10/4	2	石田技師歸台
143	琉新	1913	(T2)	5/2	2	黒岩恒氏台湾行
144	沖毎	1913	(T2)	5/2	2	農學校長出張
145	琉新	1913	(T2)	6/29	2	黒岩校長歸縣
146	琉新	1913	(T2)	8/25	2	黒岩氏の臺灣視察記
147	琉新	1913	(T2)	8/25	2	黒岩校長出覇
148	琉新	1914	(T3)	11/13	2	黒岩校長出覇せり
149	琉新	1914	(T3)	9/3	2	黒岩校長出覇
150	沖毎	1914	(T3)	9/13	3	(死亡広告) 黒岩恒長女典子永々病氣ノ處本日零時二十分死去致候
151	琉新	1914	(T3)	9/14	3	(死亡広告) 黒岩恒長女典子永々病氣ノ處本日零時二十分死去致候
152	琉新	1914	(T3)	9/19	3	(会葬御礼) 長女典子不幸ノ前後多大ノ御同情ヲ賜ハリ候
153	琉新	1914	(T3)	9/29	2	黒岩校長勇退
154	琉新	1914	(T3)	10/27	2	農學校長後任説
155	琉新	1914	(T3)	11/4	2	黒岩氏の名譽
156	沖毎	1914	(T3)	12/20	2	國頭農校新舊校長挨拶
157	沖毎	1914	(T3)	12/21	3	(広告) 拝啓小生縣立農學校在勤中ハ公私共口々御懇情口忝なし候段
158	琉新	1915	(T4)	1/13	2	黒岩氏拓殖入社
159	琉新	1915	(T4)	1/22	2	黒岩氏記念碑建立
160	不明	1930	(S5)	7/4	不明	元農學校長 黒岩恒氏逝去

* 『琉球新報』は「琉新」、『沖縄毎日新聞』は「沖毎」として表示した。 ※1916(T5), 1917(T6)には関連記事なし。

